

高校生が描いた 「原爆の絵」展



「8月6日の空」

証言者：笠岡 貞江 制作者：坂本 茜 広島平和記念資料館所蔵



「ヒロシマ～昇る魂～」

証言者：國重 昌弘 制作者：立川 奈緒 広島平和記念資料館所蔵

広島の高校生が被爆体験証言者の
記憶に残る光景を描く「原爆の絵」



観覧
無料

令和7年11月25日(火)～12月24日(水)

平塚市役所 本館1階多目的スペース (平塚市浅間町9-1)

8時30分～17時 (平日のみ) ※11月25日は13時～

【同時開催】核兵器廃絶平和都市宣言普及パネル展

平和なまち絵画コンテスト・こども平和川柳
応募作品も展示します

【関連事業】

「被爆体験者等による講演会」

日時：令和7年12月20日(土) 10時開演(約90分)

会場：八幡山の洋館演

内容：国立広島原爆死没者追悼平和祈念館が派遣する
被爆体験者等による平和講演会

定員：60名(先着申込順) 入場無料

※11月17日(月) 8時30分から、電話、FAX、メール、または上の二次元コードからお申込みください。

【問合せ先】

平塚市総務部行政総務課 TEL：0463-21-9754 メール：somu@city.hiratsuka.kanagawa.jp

主催 平塚市



核兵器廃絶平和都市
宣言普及パネル展
二次元コード



— 高校生が被爆体験を絵に描く —

基町高校の生徒と被爆体験証言者との共同制作による「原爆の絵」

広島平和記念資料館では、広島市立基町高等学校普通科創造表現コースの協力を得て、2007年度（平成19年度）から、被爆体験証言者と同校生徒が共同し、証言者の記憶に残る被爆時の光景を高校生が絵に描き、当時の状況を伝える「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。

この取組は、被爆者が高齢化するなか、被爆の実相を絵画として後世に残すこと、そして、絵の制作を通して、高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えることを目的として行っています。

何度も打ち合わせを重ねながら制作される絵は、当時の惨状を克明に描き出すものであり、また、証言者の記憶や思いに高校生が寄り添い、双方の気持ちを共に伝えるものです。

被爆体験の継承の一つの形として、一人でも多くの方に絵をご覧いただければ幸いです。

[制作方法]



① 証言者の被爆体験を詳細に聴き取る。



② 証言者が描くイメージ図や、わずかに残る写真資料をたよりに、構図を練る。



③ 色を重ねながら、光景を忠実に再現していく。



④ 1年の制作期間中、何度も証言者が絵を確認し、直しながら完成を目指す。